



オジロアシナガゾウムシ

猪高の森自然観察だより 2025・10 月号

開催日時：2025 年 10 月 26 日（日）

天候：雨時々曇り 気温：最低 16.5℃、最高 20.6℃

（名古屋に 於いて）

参加者：6 名（内 NACS-J 会員 3 名）

テーマ：木の実・草の実・渡り鳥

コース予定：森の集会所 → シダレザクラの里 → こもれば池 → 復路 → 森の集会所

10 月になって、やっと外歩きに向いた気候のなったと思ったとたんに、寒くなってきました。春と秋の気持ちよい季節は一体どこに行ってしまったのでしょうか？

気候不順の為か、今月中旬に開花したキンモクセイが、月末近くになって再び開花しています。2度咲きをするのは全ての株ではないと思いますが、今年体験するのは、私だけではないでしょう。

遅くまで気温が高かった為と長期の降雨がなかった為か、一部の木の実が全体的に少なかったり小さく成ったり、色づきが遅くなっている印象を受けます。皆さんはどう感じましたでしょう。

当日、ツクツクボウシがまだ鳴いていました。もう 11 月なのに…。

○これに出会ったらラッキー！！

その 1

旅をするチョウ：アサギマダラ



アサギマダラ（森林公園にて）

下見の時に運よく出会いました。それも下見メンバーの一部しか確認していません。

ご存知の方も多いですが、旅をする大変美しいチョウで、今は北や標高の高い所から南下してくる途中で、あちこちの緑地に立ち寄ります。特にフジバカマやヒヨドリバナの花にオスのチョウが来ることが多いので、この時期に見ることが出来るポイントとなります。

アサギマダラはふ化から羽化まで 33～40 日、成虫になってからは 1～2 か月（4～5 か月との説もある）、この近くでの越冬場所は定光寺付近のキジョラン（食草）に幼虫の姿でいるとのこと。

その2

カメムシの幼虫を食べるテントウムシ:ムネアカオクロテントウ



ムネアカオクロテントウ
丸い黒い体にオレンジ色の頭と胸

外来種のテントウムシで、洗濯物などにつくと特に嫌がられるマルカメムシの幼虫を食べる、珍しい種類です。

愛知県でも広がりつつあるようで、昨年は自然倶楽部メンバーの誰も確認していません。

今年マルカメムシのよくいるクズとその付近で見つかりました。大きさは 5～7mm。クズの葉を食べるマルカメムシの密度が減少することにより、クズの生育が促進に向かい、生態系のバランスが崩れることが懸念されています。



腹側もオレンジ色



マルカメムシの成虫
この幼虫を食べる

○きれいなノブドウミの実？



「これはノブドウの実の虫こぶなんです。

名はノブドウミフクレフシと言います。」
という記載が多いのですが、

虫こぶになった実は直径 13mm位。正常な実は直径 10mm位の記述を見つけました。

中はどうなっているか、見てみましょう？

数個の実を割ってみましたが、虫(幼虫)は発見できず、種がちゃんと入っていました。

保育社「原色日本植物図鑑」には、『果実は球状で直径 6ー8 mm、淡緑白色から紫色を帯び碧色に変わる。』と記されています。(他説あり)どうやら、果実が異常に膨らんでいた時だけ、虫こぶとして扱えばよいようです。

寄生主はノブドウミタマバエやブドウトガリバガですが、今まで過剰にその幼虫たちが入り込んでると思い込んでいたようです。やはり確認は必要ですね。

○柿の葉の黒い斑点と紅葉の関係は？



いろいろな色彩に染まったカキの葉が落ちていました。

前から気になっていた丸い斑点は何なのか、調べてみました。

実はこの斑点は「円星落葉病」と言われるカキの病気で、これにかかると早く落葉するとのことです。

一枚の葉でいろいろな色になるのは、葉の中でいろいろな反応がいつ頃に起こっているからとされています。

○キンモクセイの2度目の開花(10月末)



キンモクセイ 2度目の開花 (アーチェリー場横にて)

キンモクセイが、2度開花するのは「気候の条件に関わっているらしい」ことまでは解っているのですが、「詳しいメカニズムは不明」とのことです。

2度咲いた株が毎年2度咲くわけではないし、1度咲と2度咲が交互に生じるわけでもありません。

今年は天候が不順で、1度目の開花が「あっ」という間に終わってしまった記憶があります。

花芽分化の成熟度の差が、天候

不順の影響で花芽の成長の速度に差をもたらし、二つの時期に分かれてしまった可能性があるかと、考えています。

○秋はキノコの季節！？



マントカラカサタケ



ノウタケ



ベッコウタケ

日本でのキノコの総数は 5～6000 種(1万種とも言われます)、その中で名前のついている種類は 2～3000 種とされています。つまり、まだまだ研究途上の生き物ということです。

生態系の中の役割は「分解者」として他の生き物たちが利用しにくい、あるいは利用できない植物の「セルロースやリグニン」を無機物に戻すこと、「共生者」として樹木の養分摂取の部分で生長に関わること、さらに、雲や雨の核としてキノコの胞子に関わっている事など多岐に及びます。

しかしながら、一般植物の花にあたるキノコ(子実体)の姿も、幼菌～成菌～老菌と容ぼうが変わっていくので種類を特定することでさえも、一筋縄ではいきません。

今後、～の仲間位までは、紹介できればと考えています。

○出会った他の生き物たち



ジョウビタキのオス



キセキレイ



アオサギとカルガモ



ヒメジャノメ



コイチャコガネ



ジョロウグモ



オオスズメバチ



クサギの実



ヌスビトハギの実



イセノナミマイマイ



シャクチリソバの花



ホタルガ



フユノハナワラビ



センダンの実



キツタの若い実

次回観察会は11月23日（日）森の集会所集合 9：30～です。

（雷ナウキャストにて雷発生の危険のある場合は中止）

名東自然倶楽部のHPでは毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

<https://sizen.ciao.jp/index.html>

からご覧になってください。

（右上の自然観察グループをクリックしてください。）